

福 祉

1 教育課程研究協議会の経過（平成11年度～14年度）

平成10年7月の理科教育及び産業教育審議会答申を踏まえ、専門教育に関する教科「福祉」を新たに設置することが、教育課程審議会答申に示され、これに基づき、高等学校学習指導要領の改訂において、専門教科「福祉」が新たに設けられた。

北海道教育委員会は、高等学校が地域や学校の実態、課程や学科の特色、生徒の心身の発達段階及び特性等を十分考慮して、特色ある教育課程の編成・実施ができるよう、平成11年度から教科「福祉」を加えた「高等学校新教育課程編成の手引」を作成し、平成13年度の研究協議会から新たに「福祉部会」を開催してきた。

各年度の手引及び説明の概要は次のとおりである。

| | 手 引 の 概 要 | 説 明 及 び 協 議 の 概 要 |
|--------|--|--|
| 平成11年度 | <ol style="list-style-type: none"> 1 科目構成と内容 2 設定の基本的な考え方 3 教科の内容 4 教育課程編成上の基本的配慮事項 5 介護福祉士国家試験及び訪問介護員養成研修等に関する配慮事項 6 福祉に関する学科以外での福祉教科を取り扱う際の配慮事項 7 教科「福祉」の教員養成 | <ul style="list-style-type: none"> ・原則履修科目について ・科目設定の背景について ・教科の目標について ・福祉に関する学科における教育課程編成上の介護福祉士国家試験及び訪問介護員養成研修等との関連への配慮について ・普通科、総合学科等での福祉科目取扱いの際の留意事項について ・教科「福祉」の教員養成の展望について |
| 12年度 | <ol style="list-style-type: none"> 1 教科新設の背景と福祉教育の基本的視点 2 福祉に関する学科の教育課程の編成・実施上の基本的配慮事項 3 現場実習の配慮事項 4 科目「社会福祉基礎」等のねらいと内容の取扱い | <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化における諸課題と福祉教育における基本的視点について ・介護福祉士国家試験の受験資格取得と福祉マインドの育成について ・現場実習時における指導計画、生徒指導、事故防止について |
| 13年度 | <ol style="list-style-type: none"> 1 教科「福祉」の教育課程の編成 2 指導計画と内容の取扱い 3 指導計画の作成 4 教科「福祉」の科目による代替 5 介護福祉士国家試験受験資格取得に必要な科目と単位数 | <ul style="list-style-type: none"> ・系統性・継続性を考慮した特色ある教育課程の編成について ・教科「福祉」の科目の履修による必修教科・科目の代替について ・介護福祉士国家試験の受験資格取得にかかわる履修科目及び履修単位数の変更について |
| 14年度 | <ol style="list-style-type: none"> 1 教科「福祉」の学習指導 2 評価の工夫 3 学習指導案の作成 4 社会福祉現場実習の期間等 5 普通科等における教育課程編成上の配慮事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の視点と効果的な学習指導について ・評価の基本的な考え方と評価の工夫について ・社会福祉現場実習の期間と配慮事項について ・大学における福祉科教員養成について |

2 学習指導の改善・充実

(1) 個に応じた指導の工夫

基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実させるという学習指導要領のねらいを実現するためには、生徒一人一人の特性等を十分理解し、それに応じた指導方法や指導体制の工夫改善を図ることが求められている。教科「福祉」においては、実践的・体験的な学習活動を通して、社会福祉に関する基礎的な知識と技術の習得を図るとともに、福祉社会の一員としての実践力を身に付けさせることを目標としているが、社会福祉に関する知識・理解・考え方や実習技術の習熟の度合いなど、一人一人の生徒によって学習状況に違いが見られることから、一斉指導の他、個別指導やグループ別指導といった学習形態の導入、理解の状況に応じた繰り返し指導、学習内容の理解や習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心に応じた課題に取り組む学習など、生徒の実態や指導の場面に応じ、効果的な方法をとることが必要である。

特に、介護等に関する実習においては、安全性、自立性、個別性を踏まえた技術を習得することが必要であることから、グループ内で実技について評価させたり、パートナーを替えて繰り返し実習をさせるなど、基礎・基本の確実な定着を目指すとともに、常によりよい介護を目指して自ら向上しようとする積極的な態度を育てることが必要である。

また、基礎・基本を身に付けている生徒に対しては、綿密な指導計画の作成とともに実習先との緊密な連携のもと、社会福祉施設等での現場実習などを通して総合的な知識と技術、実践力を習得させるための指導の工夫が必要である。

こうした工夫の積み重ねによって、生徒は社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を身に付け、さらに将来、福祉従事者を目指す意欲を高めることができる。

(2) 指導と評価の工夫・改善

学校の教育活動は、計画 (Plan)、授業実践 (Do)、評価 (Check)、改善 (Action) という一連の活動が繰り返されながら、生徒のよりよい成長を目指した指導が展開されているが、指導と評価は一体となるものであり、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導に生かすことができる評価の工夫・改善が必要である。

客観的で信頼度の高い評価を行うためには、具体的な評価規準を設定し、評価方法を工夫・改善することが大切である。また、各学校において評価の信頼性を高めるためには、生徒や保護者への説明責任を果たし、評価への理解を得る必要があり、そのためには「評価を組み入れたシラバス」の作成や、該当学年終了時まで身に付けるべき各教科等の知識や技能などを、到達目標例として設定する等の工夫が必要である。

シラバスの作成に関しては、教科・科目や学習の目標、学習内容と進め方、学習の留意点、評価の方法、考査等をまとめ、生徒の学習の道標となることを意識した計画であるとともに、保護者が見ても分かりやすいものであることが求められている。

(3) シラバスの活用

科目「社会福祉基礎」のシラバス (例)

| 教科名 | 福 祉 | 科目名 | 社 会 福 祉 基 礎 |
|---|---|---------|----------------|
| 科 目 の 目 標 | 社会福祉に関する基礎的な知識を習得し、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解するとともに、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。 | | |
| 履修学年 | 第1学年 | 学科・コース | 福祉科 |
| 単 位 数 | 4単位 | 授 業 形 態 | 一斉授業又はグループ別学習等 |
| 教 科 書 | 社会福祉基礎 | 副 教 材 等 | 介護福祉士養成講座 |
| 1 学 習 の 目 標 | | | |
| <p>社会福祉を学ぶための基礎となりますので、みなさんは次のような知識や力を身に付けてください。</p> <p>(1) 社会福祉に関する基礎的な知識や技術を身に付けることにより、社会福祉全体についての理解を深めます。</p> <p>(2) 現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解を深め、社会福祉の基本的な見方や考え方を身につけます。</p> <p>(3) (1)と(2)の学習の成果に基づいて、職業資格の取得や将来のスペシャリストとしての社会福祉従事者への意欲を高め、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てます。</p> | | | |
| 2 学 習 内 容 と 進 め 方 | | | |
| <p>1に掲げた学習の目標を達成するため、次のような内容の学習を行います。</p> <p>(1) 学習に当たっては教科書と副教材を基本としますが、その他プリントを活用することで理解を深めていきます。</p> <p>(2) ライフサイクルの変化や社会構造変容と社会福祉のかかわり、社会福祉従事者、社会福祉の歴史、社会福祉の各分野の現状と課題について学習していきます。</p> <p>(3) 学習の中でビデオをみたり、調べ学習をしたり、グループ学習をしたり、施設見学などの体験的な活動を通して、生きた福祉を学び、社会福祉従事者としての価値観や思いやりの心を身に付けていきます。</p> | | | |
| 3 学 習 の 留 意 点 | | | |
| <p>学習を行う際、次のようなことに気を付けると、より学習を深めることができます。</p> <p>(1) 社会福祉を自分の生活や住んでいる身近な地域社会と関連付けながら学ぶようにしましょう。</p> <p>(2) ただ単に法律や制度を学ぶのではなく、社会福祉の価値観に基づいて、さまざまなニーズを抱えている利用者には、その制度がどのように活用できるかということを考えながら学ぶようにしましょう。</p> <p>(3) ノートは、板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたことや感じたこと、さらには興味を持ったことなどをメモしたり整理すると、学習に広がりや生まれます。</p> <p>(4) 福祉科と家庭科や公民科などの他の教科・科目の学習との関連に留意して学習することが大切です。</p> <p>(5) 授業で取り上げる様々な課題について、自分で進んで資料を収集し、その成果を積極的に発表する態度が大切です。</p> | | | |
| 4 評 価 の 方 法 | | | |
| <p>本校では、(1)~(4)のそれぞれの観点について、次のような評価方法を用いてみなさんの学習状況を評価します。</p> <p>(1) 「関心・意欲・態度」</p> <p>① 社会福祉に関する関心を持っているか。</p> <p>② 社会福祉に関する課題に意欲的に取り組んでいるか。</p> <p>③ 社会福祉に関する幅広い視野と福祉観を持ち、社会福祉の向上を図る能力と態度を身に付けているか。</p> <p>〔評価方法〕 ア 学習活動への参加の仕方や態度 イ 授業で使用したプリントの書き込み状況 ウ レポートの提出及び作成状況 エ ノートの提出及び書取状況</p> <p>(2) 「思考・判断」</p> <p>① 日常生活から派生する諸課題と社会福祉との関わりについて思考を深めているか。</p> <p>② 社会福祉の意義や役割について多面的・多角的に考察しているか。</p> <p>〔評価方法〕 ア 授業で使用したプリントの解答 イ 定期考査の記述問題の解答 ウ レポートの内容 エ 発表の内容や仕方</p> <p>(3) 「技能・表現」</p> <p>① 社会福祉に関する様々な資料や情報を適切に選択して活用しているか。</p> <p>② 学習の中で、追究し考察した内容や結果を様々な方法で適切に表現できるか。</p> <p>〔評価方法〕 ア 授業で使用したプリントの解答 イ 定期考査の資料活用問題の解答 ウ レポートでの資料活用の仕方と内容 エ 発表における資料活用の仕方と発表の仕方</p> <p>(4) 「知識・理解」</p> <p>① 現代社会における社会構造の変容や特色について把握しているか。</p> <p>② 社会福祉に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付け、社会福祉の理念と意義、役割などを理解しているか。</p> <p>〔評価方法〕 ア 定期考査の解答 イ 小テストの解答</p> | | | |

| 5 授業計画 | | | | |
|----------------|--------------------------|---|---|---|
| 月 | 単元 | 具体的な学習内容 | 評価の観点 | 考査等 |
| 4 5 | ○オリエンテーション | ・学習目標や内容、学習の仕方、評価の方法等を理解します。 | | |
| | 第1章 現代社会と社会福祉 | ・人口構成や家族形態などの変化を把握し、それらの変化が社会福祉に及ぼす影響について理解します。 | 【知識・理解】 ・人口構成や家族形態などの変化の資料を読み取り、社会構造の姿容が社会福祉に及ぼす影響を理解できたか。 【思考・判断】 ・ライフサイクルと社会福祉のかかわりについて考え、人の一生と社会福祉がどのようにかかわっているかを説明することができたか。 | ・学習プリントの提出 ・福祉施設の見学レポートの提出 ・聞き取り調査レポートの提出 ・自己評価カードの提出 |
| | 1 現代の日本社会と福祉の視点 | | | |
| | 2 私たちの一生と社会福祉 | ・ライフサイクルと社会福祉のかかわりを理解し、人の一生と社会福祉がどのようにかかわっているかを説明します。 | | |
| 6 7 | 第2章 社会福祉の理念と意義 | ・憲法第13条の幸福追求権及び第25条の生存権などから、社会福祉の制度的な位置付けやその体系を理解します。 | 【関心・意欲・態度】 ・幸福追求権、生存権、人間の尊厳、権利擁護についてのクラスディスカッションに積極的に参加し、社会福祉の理念についての理解を深めたか。 【思考・判断】 ・自立支援の視点から、基本的な社会福祉サービスを理解し、権利擁護や自立支援運動、ノーマライゼーションを推進していくためには何が必要かを説明することができたか。 | ・学習プリントの提出 ・授業への参加態度 ・事例研究レポートの提出 ・定期考査 ・自己評価カードの提出 |
| | 1 社会福祉の理念 | | | |
| | 2 自立生活支援 | ・自立について幅広くとらえることで、自立生活支援の考え方、それを支える多様なサービスについて理解します。 | | |
| 8 9 10 | 第3章 社会福祉の歴史 | ・欧米諸国の社会福祉の歴史の学習を通して、現在の社会福祉の理念や制度が欧米における社会福祉の発展とどのように結びついているのかを理解します。 | 【思考・判断】 ・欧米諸国の社会福祉の理念と制度の発展経過について理解し、現在の社会福祉の理念や制度の背景を説明できたか。 | ・学習プリントの提出 ・事例研究レポートの提出 ・調べ学習レポートの提出 ・定期考査 ・自己評価カードの提出 |
| | 1 欧米における社会福祉の歴史 | | 【知識・理解】 ・日本における社会福祉の歴史的展開について、戦前、戦後の社会福祉のしくみと発展を中心に理解できたか。 | |
| | 2 日本における社会福祉の歴史 | ・欧米諸国と比較しつつ、明治時代以降の日本における社会福祉の歴史の学習を通して、現在の社会福祉の理念や制度が歴史の経過の中で誕生し、発展してきたことを理解します。 | | |
| 10 11 12 | 第4章 社会福祉分野の現状と課題 | ・社会福祉の各分野が生まれてきた社会的背景と理念について理解します。 | 【知識・理解】 ・社会福祉の各分野が生まれてきた社会的背景と理念について理解できたか。 【技能・表現】 ・各分野に関連した事件の新聞記事やモデル家族の事例などから、具体的に現状や制度等を理解し、それぞれの課題について問題意識を持って考えることができたか。 【知識・理解】 ・実態調査、関連施設の見学、社会人講師の講義のレポート作成、利用者ごとの福祉サービス関連図の作成を通して、地域福祉の実状と課題について理解できたか。 | ・学習プリントの提出 ・事例研究レポートの提出 ・実態調査レポートの提出 ・関連施設見学レポートの提出 ・社会人講師授業レポートの提出 ・福祉サービスの関連図の提出 ・定期考査 ・自己評価カードの提出 |
| | 1 公的扶助 | ・各分野の代表的な施策や課題について理解します。 | | |
| | 2 児童家庭福祉 | | | |
| | 3 高齢者福祉 | | | |
| | 4 障害者福祉 | | | |
| | 5 地域福祉 | ・地域の施設福祉サービス・在宅福祉サービスについて、地域の実状を理解します。 | | |
| 1 2 3 | 第5章 社会福祉の担い手と福祉社会への展望 | ・介護福祉士を中心に社会福祉従事者の専門性及び役割など概要を学びます。 | 【関心・意欲・態度】 ・いろいろな事例を通して、社会福祉従事者の専門性と役割を理解し、専門従事者としての適切な対応について考えることができたか。 【思考・判断】 ・自分たちにできる身近なボランティア活動について考え提言できたか。 【技能・表現】 ・街の中にどんな「バリアフリー」の工夫があるかを調べ、発表できたか。 【知識・理解】 ・相互扶助の精神と国民一人ひとりの意識改革の重要性について理解できたか。 | ・学習プリントの提出 ・事例研究レポートの提出 ・身近なボランティア活動提言レポートの提出 ・調べ学習レポートの提出 ・発表の仕方及び内容 ・定期考査 ・自己評価カードの提出 |
| | 1 社会福祉の人材 | | | |
| | 2 福祉社会の創造 | ・福祉社会をつくり上げていくために、相互扶助の精神と国民一人ひとりの意識改革の重要性について理解します。 | | |
| | 3 21世紀福祉社会への展望 | | | |